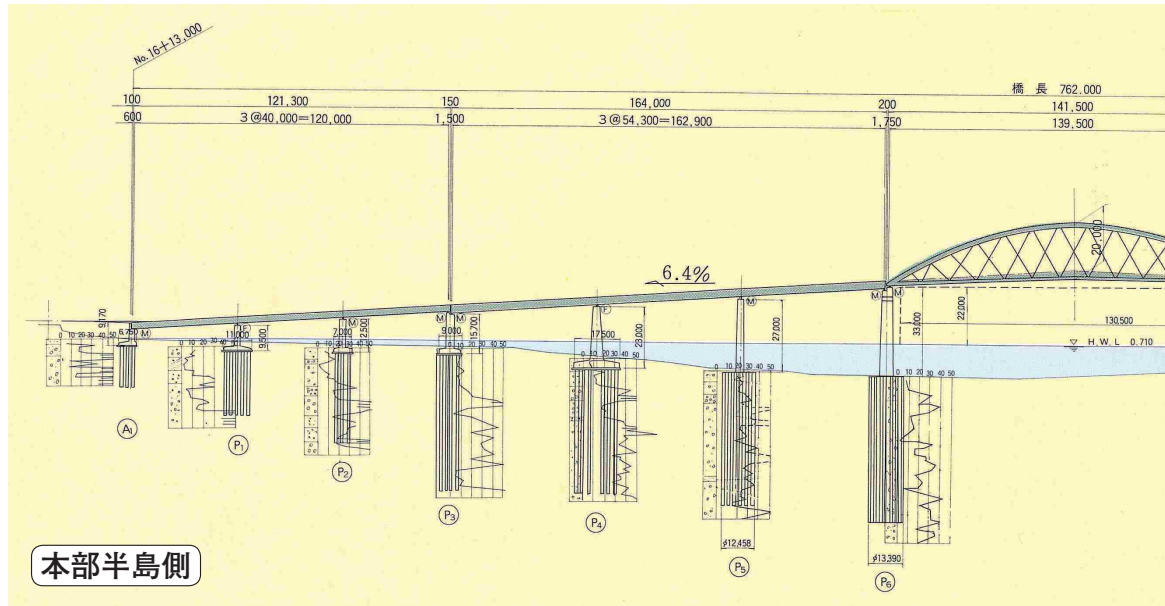
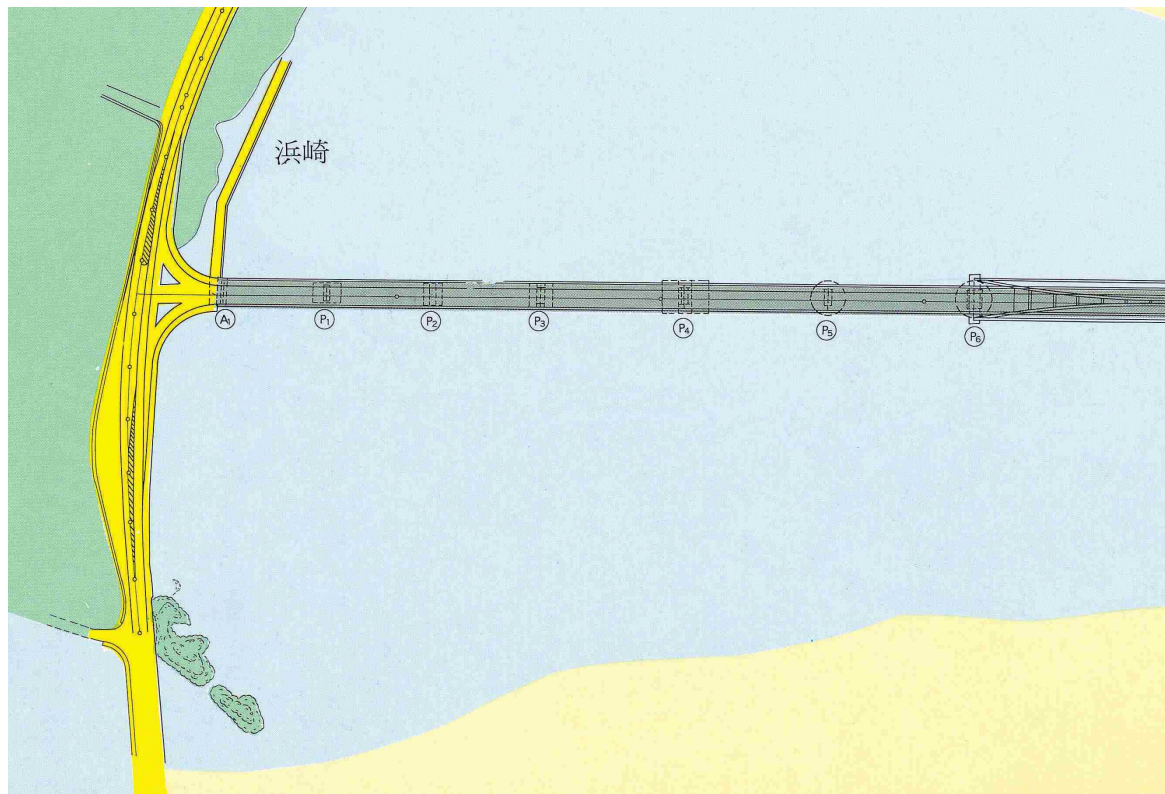


## 計画一般図

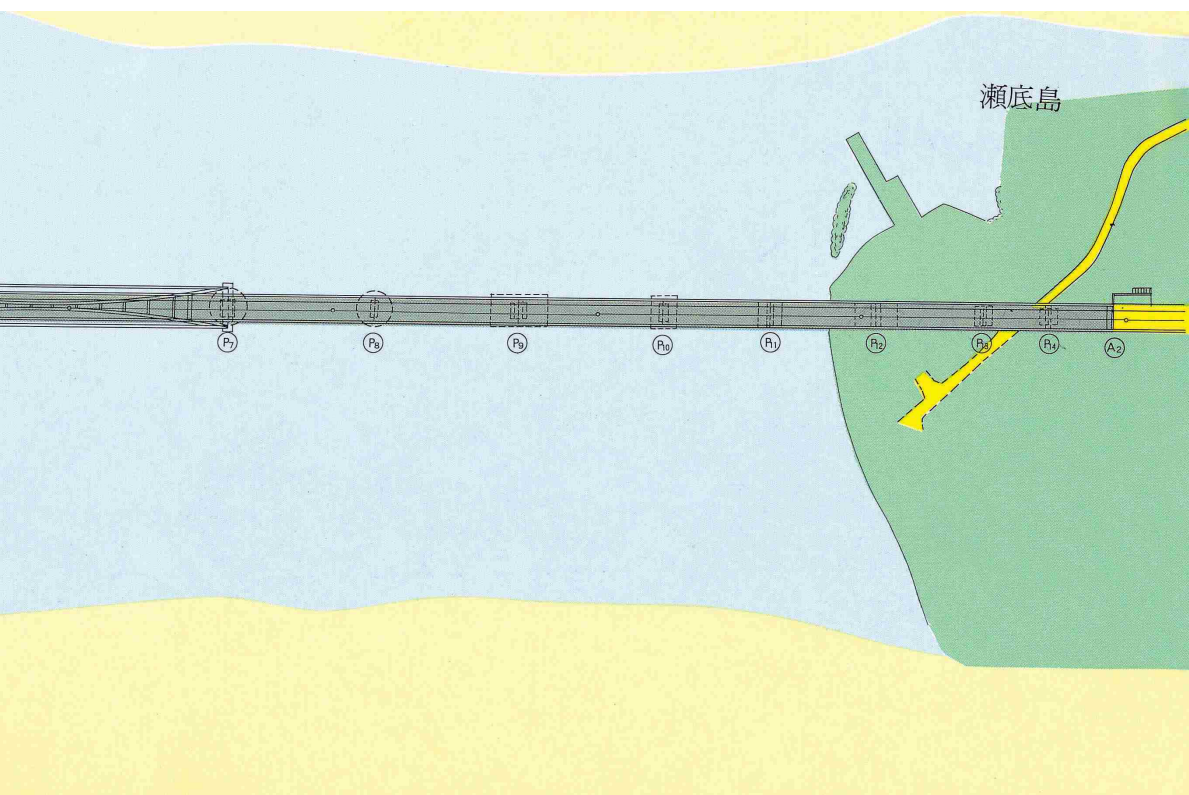
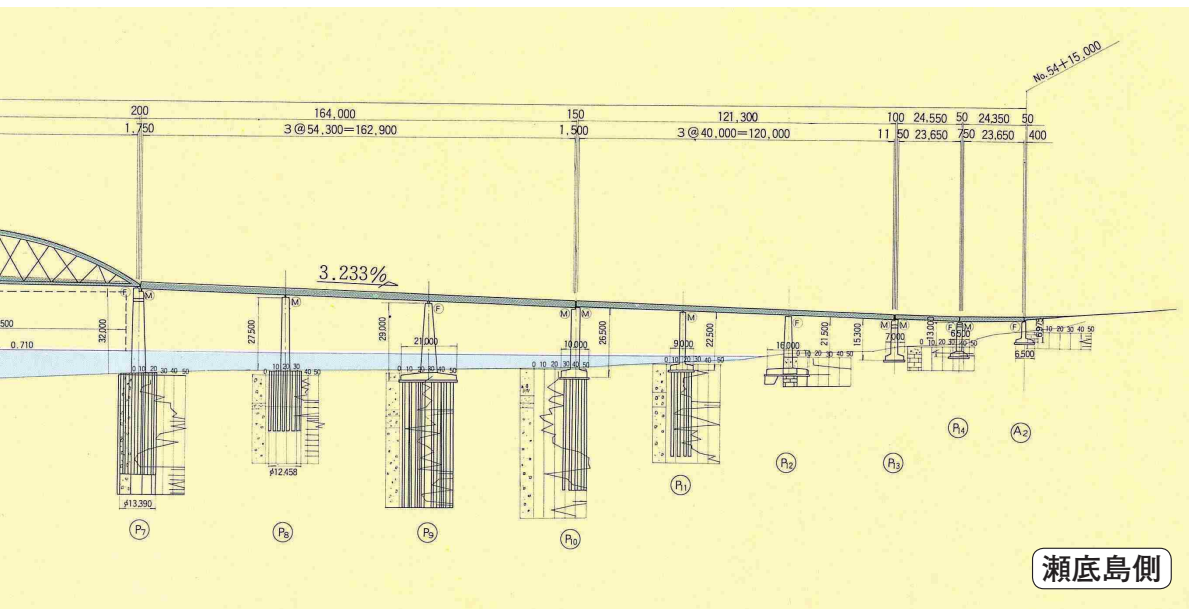


## 平面図

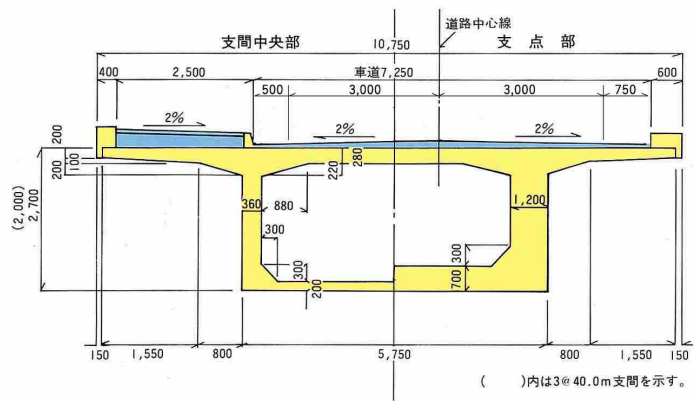


## ●構造形式

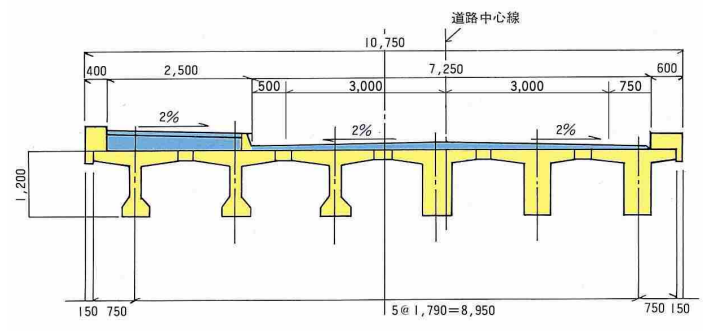
上部工形式	主径間：鋼ニールセンローゼ桁 側径間：PC3径間連続箱桁 PC単純T桁	
下部工形式	橋台：鉄筋コンクリート壁式 橋脚：鉄筋コンクリート逆T式 鉄筋コンクリート張出式	2基 10基 4基
基礎工形式	仮締切兼用鋼管矢板井筒基礎φ1200 鋼管杭基礎φ1000、φ900 直接基礎	5基 7基 4基



**標準断面図**

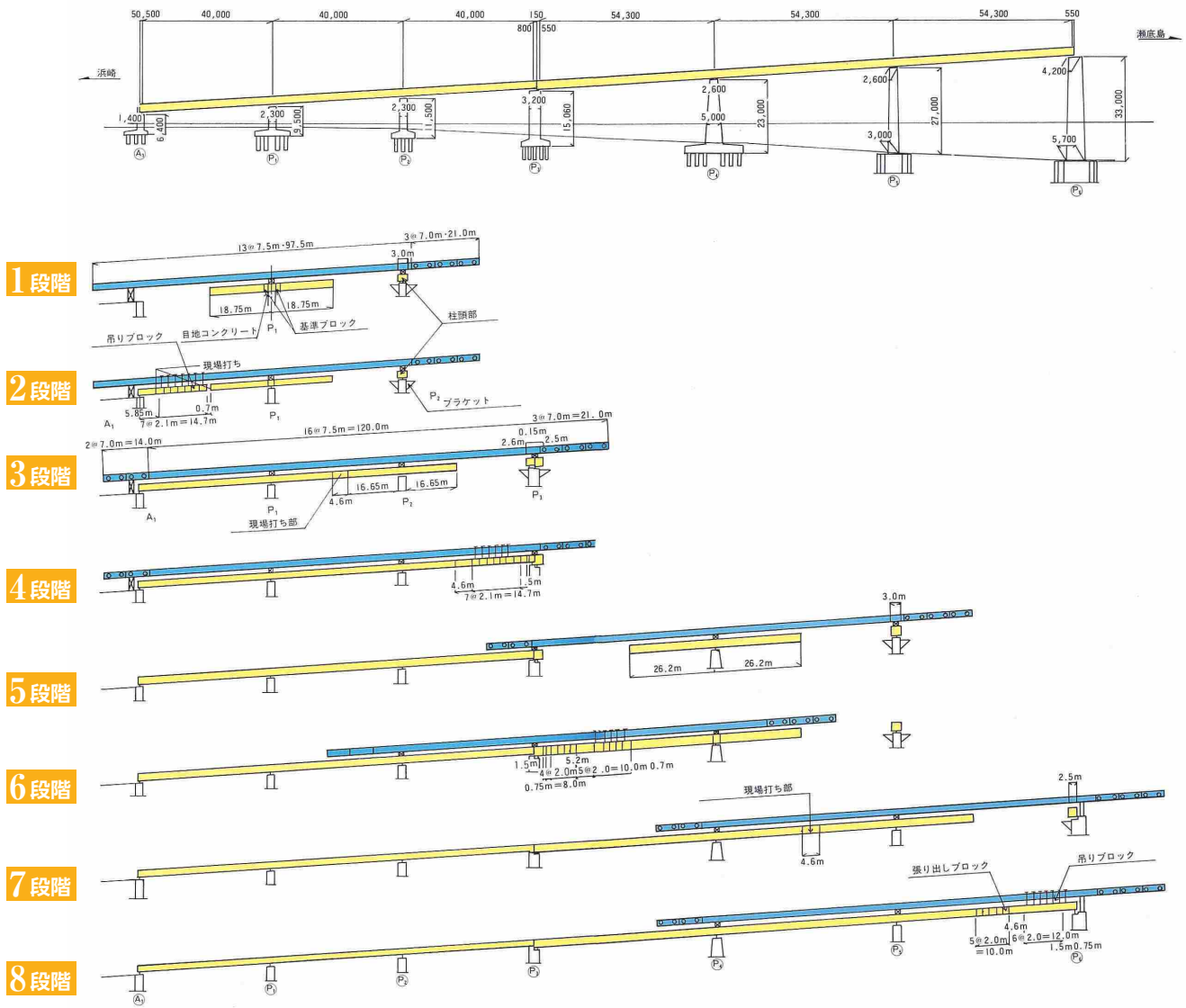


PC3径間連続箱桁



PCポストテンション単純T桁

## 施工段階図



### 1段階

- 主柱柱頭部施工後、A1取付道路上で架設桁を組立て引き出しセットする。
- 基準ブロックをP1部に据付け、目地コンクリートを打設する。
- 基準ブロック据付後、P1柱頭部より両側に張り出し架設する。

### 2段階

- 7個のブロックを架設桁より吊り下げ仮連結する。
- A1現場打ち部を支保工上で施工し、吊りブロック部と連結する。
- A1～P1径間中央現場打ち部を架設桁より吊り支保工で施工し、連結する。

### 3段階

- 架設桁を移動する。
- P1部と同じ要領でP2柱頭部より張り出し架設する。
- P1～P2径間中央現場打ち部を吊り支保工で施工し、連結する。

### 4段階

- 基準ブロック据付後、7個のブロックを架設桁より吊り下げ仮連結する。
- P2～P3径間中央現場打ち部を施工する。

### 5段階

- 架設桁を移動する。
- P4部より両側に張り出し架設する。

### 6段階

- 架設桁を移動する。
- P3部より片持張出す。
- 吊りブロック部を施工する。
- P3～P4径間中央現場打ち部を施工し、連結する。

### 7段階

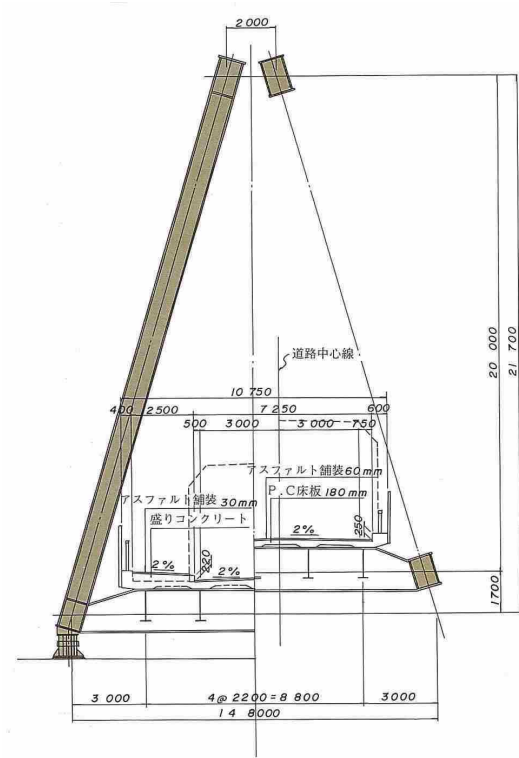
- 架設桁を移動する。
- P5部より両側に張り出し架設する。
- P4～P5径間を連結する。

### 8段階

- P5より追加張り出し架設する。
- 吊りブロック部を施工する。
- P5～P6径間を連結する。

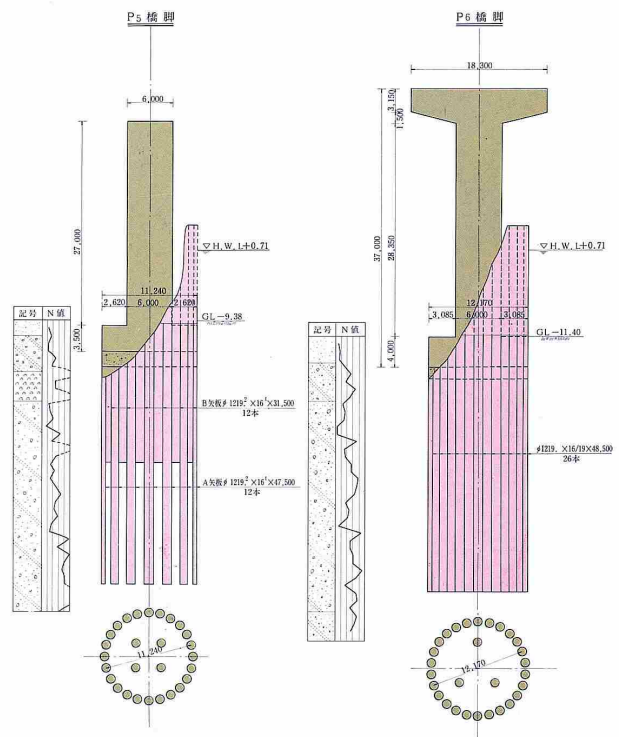
## 上部工概要

海上橋梁であること、特に本県は台風の影響を大きく受けること、これらを中心に経済性、施工性、美観、車両走行性、維持管理等のあらゆる面から検討して主径間はニールセンローゼ桁、側径間はPC3径間連続箱桁およびポストテンション単純T桁を採用した。特に主径間は耐風安定性を高めるため、バスケットハンドル型とした。



## 下部工概要

架橋地点の地質は瀬底側の一部を除いて、沖縄独特の第四紀琉球石灰岩の風化層が主体である。これはサンゴの遺骸、サンゴ有孔虫、石灰性海藻を含む不均一な地層で、複雑な生成過程のため、性状は一定しておらず、シルト質砂礫状で固結力は弱く、岩としての概念も薄く、また通常の堆積地盤と異なり深度が増しても硬くなるとは限らない。これらの特色をふまえて瀬底側の一部は岩盤上の直接基礎とし、他は鋼管杭基礎工法が採用された。特にP5～P8橋脚の4基は水深が約7～12mもあり、仮締切り兼用の鋼管矢板井筒工法が採用された。



側面